第2回 火山検討会 議事録

- 1. 開催日時:平成18年8月28日(月)10:00~11:40
- 2 . 開催場所:日本電気協会 A会議室
- 3. 出席者:(順不同,敬称略)
 - □ 耐震設計分科会長:柴田(東大名誉教授) (計1名)
 - □ 委 員:衣笠主査(東京工業大学),中田副主査(東京大学地震研),山崎
 - □ (首都大学東京),酒井幹事・武田(東京電力),橋本(東北電力)
 - - 燃料貯蔵) 三浦・土志田(電中研) 、小林(日本原燃) (計 1 7 名)
 - □ 代理出席:斉藤(北海道電力・四家代理) 入谷(日本原子力発電・北川代理)
 - □ (計2名)
 - □ 常時参加者:河野(電源開発),内山(JNES) (計2名)
 - □ オブザーバ:上田(電中研)、花田(原技協)、荒川(リサイクル燃料貯蔵)
 - (計3名)
 - □ 事務局:大東、荒木(日本電気協会) (計2名)

4. 配布資料

資料 No.2-1 第 1 回火山検討会 議事録 (案)

資料 No.2-2 JEAG 火山影響評価指針(仮称) 目次及び内容(案)

参考資料 1 マグマの水平移動特性に対する評価法を提案

参考資料 2 活火山の火口移動に関する検討

5 . 議事

(1)出席者及び前回議事録(案)の確認

事務局より、本日の代理出席者は2名であり、代理出席者については規約に基づき 衣笠主査の承認を頂いた。また、代理出席を含む出席委員は19名であり、規約上、 決議に際して求められる委員総数の2/3以上の出席であることが確認された。

また、事務局より前回議事録(案)の紹介を行い、挙手による採決の結果、出席者 全員の賛成で了承された。

(2) JEAG 火山影響評価指針(仮称) 目次及び内容(案)

資料 No.2-2 により JEAG 火山影響評価指針(仮称) 目次及び内容(案)についての説明が行われ審議した。各委員が確認し、コメントがあれば 2 週間以内を目途に酒井幹事に連絡することとした。

主なコメントを以下に示す。

- a.検討対象を第四紀以降に活動した火山とすること、また敷地から150km 以内の火山を対象とすることについては、理由の説明が必要である。
- b.既往最大規模を上廻る噴火も想定する必要があると考えられる。この場合、考慮する 噴火規模は、噴火パターン、噴火間隔、形状等が類似した他の火山を参照するなどし て想定することが考えられる。
- c.単成火山群について、確率論での議論は精度が不十分ではないか。また,単成火山群 を特別に扱う必要はないのではないか。
- d. 2.1.2 調査手法には、既存文献だけでなく最新の知見を含めること。
- e. 2.1.5 敷地に影響を与える可能性とあるが、立地への影響か安全性への影響か具体的な機能を記述する必要がある。
- f. 2.2.4 調査結果表示で敷地 5km 以内とあるが、距離で限定するのではなく、被害を与えるかもしれない火山現象毎に、敷地の位置関係から判断するべきではないか。
- g. 2.2.5 影響を考慮すべき火山および火山現象の抽出の項で、休止期間より対象外とする火山に触れているが、詳細評価に至る前で対象外とするもの、また詳細評価の結果として対象外とするものについてフローチャートを作り整理すること。
- h. 2.3 敷地への影響の評価では、例えば火山灰の量、厚さまでを今回の指針できちんと決めることが求められているのではないか。
- i.海底火山についての検討範囲を明確にしておく必要がある。
- (3)マグマの水平移動特性に対する評価法等の紹介

マグマの水平移動特性に対する評価法及び活火山の火口移動に関する検討について参考資料1、2により紹介が行われた。

(4)その他

次回検討会は12月に行うこととし、日時等は別途連絡することとした。

以上